

平成27年度 教育事業
青少年教育施設ボランティア養成講座

ボランティア活動に必要な知識や技術を、今後参加者が活用できるように工夫して演習を実施しました。また、参加者がボランティア活動を通して自己実現を図れるよう、ボランティア活動の意義について学びを深める機会を設けました。

1 事業実施までの経緯

昨今、青少年にボランティア精神を普及し、生涯を通じて様々な場面でボランティアとして活躍できる人材を育成する必要性が指摘されている。この事業は機構のボランティア活動のみならず、広く青少年教育に携わる人材の育成を目的としており、これまでボランティアに参加してきた参加者にとっては学び直しとスキルアップを、ボランティアに興味を持っているが経験のない参加者にとっては基礎を学ぶ場、そして両者の交流の場を提供すべく、この事業を企画した。

2 ねらい

国立大洲青少年交流の家等で実施される教育事業や研修支援等の運営協力・指導補助を行うボランティア人材を育成するとともに、ボランティア活動の一層の推進を図る。

平成27年度 国立大洲青少年交流の家 教育事業

先着 **20名**

青少年教育施設 ボランティア養成講座

2015年 **9月12日**～**9月13日**
【1泊2日】

会場 独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立大洲青少年交流の家
(愛媛県大洲市)

参加費 **3,000円**(税込)
(交通費、食費、宿泊代別)

対象 ボランティア活動に関心のある
高校生・大学生・社会人など

こんな人にオススメ！

- ①ボランティアに興味があるが、どんな能力が必要なのかわからない。
- ②これまでとは違った新たなネットワークを広げたい。
- ③将来、教育に関わる仕事がしたい。

STEP1 2日間のボランティア養成プログラム受講

STEP2 青少年教育振興機構のボランティアに登録

STEP3 全国28ヶ所の機構施設でボランティア可能
※交通費等が支給されます。

体験の風をおこそう

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立大洲青少年交流の家

3 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

4 後援 愛媛県教育委員会・大洲市教育委員会・愛媛新聞社

5 期日 平成27年9月12日(土)～13日(日)【1泊2日】

6 場所 国立大洲青少年交流の家

7 参加人数 27名(内訳:高校生23名・大学生3名・社会人1名、男性4名・女性23名)

8 講師 山崎哲司氏(愛媛大学教育学部教授)
柴崎あい氏(愛媛ボランティア学習研究会事務局長)
大洲地区広域消防事務組合消防署員
国立大洲青少年交流の家 企画指導専門職・事業推進係

9 日程・内容

(1) 日程

	9:15	9:45	10:00	11:00	12:30	13:30	16:30	17:30	19:00	20:30	21:00	22:30
12日(土)	受付	開講式	ボランティア活動の技術Ⅰ	青少年教育の課題	昼食・休憩	安全管理(普通救命救急)	青少年教育施設の現状と運営	夕食・休憩	ボランティア活動の意義	入浴・休憩	情報交換会	就寝
	6:30	9:00		12:00	13:00		15:00	15:30				
13日(日)	起床 つどい 朝食		ボランティア活動の技術Ⅱ		昼食・休憩	青少年教育におけるボランティア活動	閉講式		解散			

(2) 活動内容

【概要】

本事業は、独立行政法人国立青少年教育振興機構における法人ボランティア養成共通カリキュラムに基づき、2日間を通してボランティアについて意義をとらえ直し、必要な技術について万遍なく身につけられるように計画した。今回の参加者は日常的に何らかのボランティア活動に参加した経験を持つ者が多かったため、自らがこれまで行ってきたボランティア活動を振り返り、それぞれが持つボランティアに対する考えを相互の学びに換えられるように意見交換の時間も設定した。1日目には講義を中心としつつも演習やディスカッションの時間を取り入れ、参加者間の交流も図った。2日目には具体的な活動時間を多く確保し、体を動かしながら前日学んだ知識が活かせるよう、プログラムを工夫し実施した。

演習①ボランティア活動の技術Ⅰ「仲間作りの手法」(60分)

開講式の後、当交流の家職員の指導で、アイスブレイクを行った。参加者間の緊張をほぐし、これからの講座に向けて活動しやすい雰囲気作りを行うとともに、参加者自身がアイスブレイクを体験することで、その手法を具体的に学んだ。アイスブレイクに用いたそれぞれのプログラムの後には振り返りを行い、参加者に実施上の注意点と活動のねらいについて学んでもらった。参加者がお互いの顔とキャンプネームを覚える活動から始まり、徐々にボディタッチを伴う活動へと展開し、最後は楽しさを全体で共有するような活動へと発展させていった。参加者はアイスブレイクを楽しみながら、それぞれのプログラムの特徴を理解した。



講義①青少年教育の課題「青少年教育とは」(90分) 講師：山崎哲司氏(愛媛大学教育学部教授)

講義の冒頭で近年、大学での学習活動において重要視されつつある「アクティブラーニング」や「ジェネリックスキル」という概念が紹介され、体験活動の重要性が述べられた。「アクティブラーニング」とは、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた手法であり、問題解決学習や調査学習などが含まれる。これによって習得されるのが「ジェネリックスキル」と称される汎用的能力であり、どの分野でも必要とされる、学んだ知識を活用して新たな価値を生み出す能力とされている。参加者はこのような理論を学んだ後に、ペアワークを通じて知識を元にした問題解決学習がどのようなものであるか体験し、化石標本を手に取り観察することで興味や関心がどのように広がってゆくのか実感し、講義内容について理解を深めた。



演習②安全管理「応急処置危険予知」（180分） 講師：大洲地区広域消防事務組合消防署員

消防署員の指導により、普通救命講習Ⅰの内容である心肺蘇生やAEDの扱い方といった基礎的救命技術を学びながら、野外の活動で発生しがちな傷病への対応についても理解を深めた。

近年では高等学校の学習活動として救命講習の時間が設けられているが、呼吸の確認の仕方ひとつにおいても要救助者がうつ伏せの場合と仰向けの場合の違い、手のひらと手の甲のどちらで確認すべきかといった消防署員の細やかな指導に、参加者は改めて救命講習を受ける必要性に気づかされた様子であった。後半では、応急手当に必要な物資に乏しい野外で傷病が発生した場合に、何が実際に使えるのか実演しながら演習が進んだ。毛布を使った担架や、傘を添え木に使った固定法、そしてそれらが無い場合の応急処置の手法など、現場にあるものを使った応急手当の方法についても学んだ。



講義②青少年教育施設の現状と運営「青少年教育施設の現状」（60分）

当交流の家所長から、大洲青少年交流の家の紹介および青少年教育振興機構の教育的機能や役割、運営について説明を受けた。今回の養成講座で法人ボランティアの資格を取得する参加者はもちろん、すでに資格を持っている参加者も機構が行っている事業、特に調査研究や子どもゆめ基金事業については初めて聞く部分が多かったようで、機構の概要パンフレットを手元に見ながら理解を深めた。今回の参加者の中には、関東方面から社会教育実習の一環として参加している大学生もおり、将来の進路先として社会教育分野を志しているだけに熱心に聞き入っていた。



また、子どもが体験する自然体験活動が近年どのような変化を示しているかグラフ等の指標を元に紹介され、参加者は国立の青少年教育施設の設置意義について学び、体験活動と意欲や関心、規範意識との相関関係から体験活動の重要性について理解を深めた。

講義③「ボランティア活動の意義」（90分） 講師：柴崎あい氏（愛媛ボランティア学習研究会事務局長）

ボランティア活動の意義について理解するとともに、ボランティア活動における心構えや留意点について学んだ。

まず始めに講師から「ボランティア四原則」が紹介され、続いて「あなたにとっての四原則は？」「ボランティアってなぜやるの？」といった命題が出され、参加者それぞれがボランティア活動の意義について意見をまとめた。

後半は参加者が5名前後のグループに分かれ、それぞれの意見を交換しながらボランティア活動の意義について班ごとに意見をまとめ、全体に発表した。演習が進む中、講師の柴崎氏から

「『わたし』が変わる＝『社会』が変わる」「ボランティア活動とは『自分づくり』であり『社会づくり』である。」「0と1の距離は1と1000の距離よりも遠い。一步踏み出す力が大切。」といった言葉が投げかけられ、参加者にとってはこれまでのボランティア活動を見直すきっかけとなるとともに、これからのボランティア活動に向けての力をいただいたようであった。



演習③ ボランティア活動の技術Ⅱ「野外炊飯」(180分)

野外炊飯の基本的な技術を習得するとともに、活動に潜む危険のリスクマネジメントについて学んだ。最初に当交流の家職員よりKYT(危険予知トレーニング)の考え方についての説明があり、参加者は班に分かれて野外活動に潜む危険について考えを交換した。その後、危険をコントロールしながら野外活動を行うための留意点について確認し、野外炊飯の準備に取り掛かった。



今回の野外炊飯はダッチオーブンをを使った鶏飯とし、職員による指導とレシピを参考に班ごとに協力して調理を行った。前日夜の意見交換と同じ班での調理を行ったため、共同作業を通じてさらに親密度が高まったようであった。

講義④「青少年教育施設におけるボランティア活動」(120分)

昨年度、当交流の家で活動した法人ボランティアの様子をビデオで紹介し、それぞれの企画でどのような役割を果たしたのか資料を元に理解を深めた。今年度、養成講座以降に予定されているボランティア募集を伴う企画について説明を受け、今後の活動予定について意見交換を行った。

(3) 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

*満足：85.2% *やや満足：14.8% *やや不満：0.0% *不満：0.0%

- ボランティアの原点について改めて考え直す機会になって良かった。ボランティアをする理由、その意義、そこから得られるもの、自分の考えを深めていきたい。
- ボランティア活動によって「自分づくり」が「社会づくり」につながってゆくという考え方が心に響き、深く考えさせられました。
- 他の参加者がボランティアについてどう思っているか、興味深い話がたくさん聞けた。普段かかわることのないような様々な人の話を聞いて、私自身の今後を考えるきっかけになった。
- 何ヶ月も前から集まってボランティアたちが考えた企画を実行してみたい。

(4) 成果と課題

今回の養成講座は高校生の参加者が多く、27名中23名を占めた。参加した高校生はVYS部(ボランティア部)に所属して活動している者、もしくは県教育委員会生涯学習課が主催するボランティア企画に参加した経験を持つものが大半で、今回の養成講座は学び直しの機会になったと考えられる。

また、ディスカッションや野外炊飯を行う際のグルーピングとして、法人ボランティアの有資格者と未資格者を組み合わせることによって、ボランティア



に対する様々な見方・考え方が再確認でき、お互いに新鮮な発見があったことがアンケート結果からも見受けられる。

今回の養成講座のねらいである教育事業の運営協力・指導補助を行うボランティア人材の育成に関しては、受講者27名中18名が養成講座の後に実施した事業に参加しており（11/8現在）、ほぼねらい通りの成果を挙げている。

今後の課題として、まずはリーダー格となる法人ボランティアの養成が挙げられる。今後の活動を通してリーダー格となるボランティアを見出し、リーダーを中心にボランティアが自発的な企画・運営に取り組める活動の場や機会を提供する必要がある。法人ボランティアが教育事業に意欲的に参加できる総合的な仕組みを、今後の事業企画・計画等に組み込んでいきたい。

また、今回のボランティア養成講座参加者は中予および南予地域に偏っており、東予地域からの参加者が皆無であった。大洲への交通事情等を考えると致し方ない部分はあるが、県内人口の約3分の1が居住する地域にも、ボランティアを志す青少年は相当数いる筈である。広報の仕方や開始時間を工夫するなど、若干名でも参加してもらえような方法を検討したい。

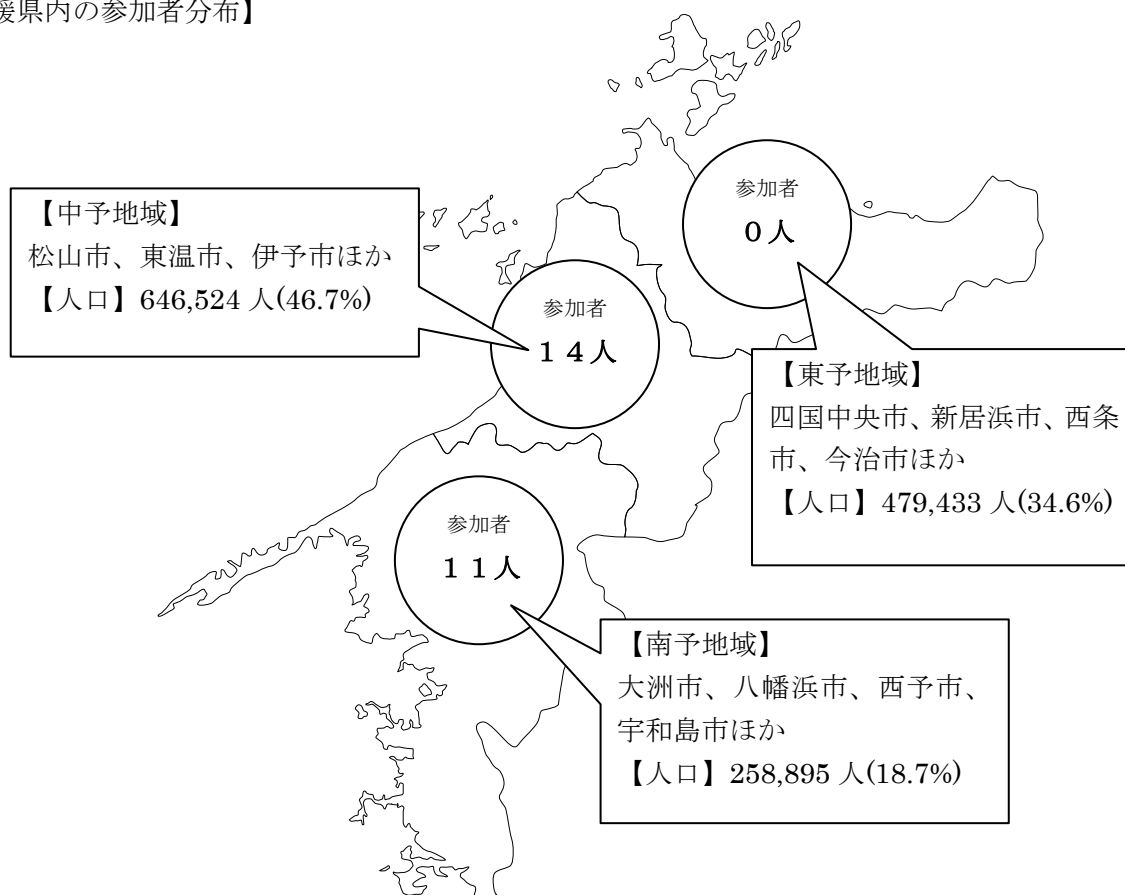
（担当：企画指導専門職 来田 淳）

【養成講座後のボランティア参加状況】

事業名	期日	ボランティア数	うち養成講座受講者
第6回チャレンジカヌーツーリング	9/27	2名	2名
大洲青少年交流の家フェスティバル	10/17	39名	15名
親子で体験活動にチャレンジ（秋編第2回）	10/24・25	4名	4名
親子で体験活動にチャレンジ（秋編第3回）	10/31・11/1	2名	2名

※11/8現在

【愛媛県内の参加者分布】



※人口は2015年10月1日現在の推計値